

2023年度 後期科目等履修生 開講科目講義概要

【日本理解専攻】

授業科目 (担当教員)	講 義 概 要
日本文化論 (伏見 親子)	四季のある国で暮らす日本人の生活という視点から、日本文化の基盤にある歳時記を取り上げる。暦法から暦(カレンダー)による暮らしの変化を学び、今に至る日本人の精神性(宗教観、道徳観など)を、季節ごとの行事から俯瞰する。
日本語学概論Ⅱ (部田 和美)	日常的な言語現象を観察し、なぜそのような使い方や言い方になるのか、そこにどのような規則があるのかについて学生自身が考え、日本語の言語学的特徴について学んでいく。Ⅱでは主に文章や談話に見られる法則や、社会と言語について扱う。
日本史学概論 (梶原 健嗣)	本講義は、日本の近代史である。幕末の開国の時期から現代まで日本の歴史を、政治及び外交分野を中心に概説する。「概論」講義であり、教養レベルとして必須の事項を概説する。
歴史と現代 (梶原 健嗣)	日本社会史(歴史と現代Ⅰ)が、江戸時代からの社会経済史を通説的に概説したのに対して、本講義では地域史として、現代社会につながる「歴史」を概説する。
現代日本事情Ⅱ (部田 和美)	前半は「時事問題」「生活」「文化」といったテーマの話題を毎回1つ定め、関連記事や資料等を読み内容を把握し自身の意見をまとめて形にする。後半は、学生自らが前半で扱ったテーマから特に関心のあるものを1つ選び、より深く掘り下げる。グループ単位での発表とそれをもとにした個人発表を行う。
日本と西洋文化 (伏見 親子)	日本の歴史・伝統、現代の暮らしまでを、英語で表現する方法を学ぶ授業である。日本独特の文化を西洋の文化と言語に置き換える作業を通じて、双方の理解を深めていく。
日本と国際社会 (梶原 健嗣)	日本と世界の関わりを、地域別に学ぶ講義である。取り上げる国は、いずれも日本と関わりの深い主要国であり、その地誌、歴史(対日関係)を学ぶ講義となる。
国際協力学 (梶原 健嗣)	戦後の国際関係、国連を中心に学ぶことで、国際社会の相互依存・関係を学習する。本講義の学習を通じて、今日の国際社会の様々な問題点を体系的に理解して欲しい。
バイリンガル教育論 (清水 聖子)	バイリンガル教育とは何か、子どもを中心に言語の発達と年齢の関係、バイリンガル教育の理論と実践を紹介していく。
観光学Ⅱ (羽田 利久)	地域や観光関連産業と消費者とを繋ぐ役割をしている組織に焦点を当て、具体的事例を元に講義をおこなう。
地域文化と観光 (羽田 利久)	日本各地にある様々な人文観光資源について、映像などを使用しながら理解しやすく説明する。なお、人文観光資源とは宗教、芸術、歴史など人文科学的な観点から捉えることのできる観光資源のことである。

【心理・生活専攻】

授業科目 (担当教員)	講義概要
心理学基礎 (原島 雅之)	「心」は自分にとっても身近で明らかなものであるように思える一方で、考えれば考えるほど複雑で難しいもののようにも思える。心理学という学問において、そのような「心」に対してどのようにアプローチを行ってきたのか、様々な分野の代表的な知見を紹介していく。
心理学概論 (佐久間 直人)	心理学の基本的分野を幅広く、毎回領域を変えながら紹介し、様々な角度から心のはたらきについて議論する。心理学がどのような方法で人間の「心」に迫ろうと試みてきたか、そしてその試みを通じて何が明らかになってきたかについて学ぶ。
社会心理学Ⅱ (原島 雅之)	近年、社会心理学においては目標達成に関する研究が大きな注目を集め、数多くの研究知見が得られている。本教科では、そのような知見をもとに、どのように目標を立て実行すべきか、また、他者のモチベーションをどのように引き出したらよいかについて考える。
性格心理学 (原島 雅之)	「性格」ということばは日常の様々な場面で用いられ、多くの人が関心を持っているが、性格がそもそもどういふものかを説明することはなかなか難しい。本講義では心理学においてこれまで性格がどのように捉えられ、扱われてきたのか、その理論や方法論などを紹介していく。
認知心理学 (佐久間 直人)	認知心理学とは、心の仕組み・機構を論理的に解明する学問であり、比較的新しい領域でありながら、今やほとんど全ての心理学に影響を与えている。本講義では、認知心理学の代表的なトピックとされるいくつかの題材を学ぶとともに、それらを通して、手法としての認知心理学を学ぶ。
心理学研究法Ⅱ (佐久間 直人)	心理学という学問の、実践的な研究方法を紹介する。代表的な研究手法、データの分析手法を紹介した「心理学研究法」というテキストに沿って授業を進めていく。心理学研究法Ⅱではテキストの8章から14章にある、データの分析・解析の方法および研究のまとめ方をとりあげる。
生活科学概論Ⅱ (市川 遥夏)	衣・住と生活に加え、香料と生活、森林浴と環境、化粧品の科学など現代の生活に密接に関係する課題について解説し、実生活にどう生かすかを説明する。
食品衛生学 (市川 遥夏)	食品の安全、食品衛生法と関連法規および食中毒・食品媒介感染症・食品添加物・食品汚染物質などについて学ぶ。それに関する多くの事例を挙げながら解説する。
介護・児童福祉論 (赤羽根 和恵)	本講義では、前半に介護が必要な高齢者や障がいのある人が、その人らしい人生が送れるように社会資源を活用しながら自立支援を行うことについて理解を深める。そして、後半では子どもの権利と子育て家庭への社会的支援について学ぶ。今日の子どもを巡る社会問題について考える。それら福祉の対象者について、社会のさまざまな制度、地域との連携も含め多角的に考える。
生活経済学 (赤羽根 和恵)	授業の目的は、政府、企業、消費者の役割について理解を深め、経済主体としての家計の担う役割を理解する。家計に関する各調査データを見て実態を把握する。消費者問題について様々な側面から考える力を養うことである。近年、積極的な取り組みが見られるエシカル消費も取り上げる。

【地域共生専攻】

授業科目 (担当教員)	講義概要
法律学概論 (太田和 良幸)	日常生活で遭遇する可能性のある各種の法的事案について、どのように対処したら良いのか具体的な事例に沿って学習することにより、法に親しみ、法の理解を促進する。
経済学概論 (中村 塑)	ミクロ経済学は一人ひとりの消費者や一つひとつの企業といったミクロな経済主体から、マクロな市場やそこでの政策効果を分析する学問である。本授業は概論であるため、ミクロ経済学の大枠について講義する。
公共政策学 (岡庭 義行)	公共政策とは、社会で解決すべきと認識された諸問題に対して、具体的な方向性と手続きを浮揚させながら、その解決に向けて取り組むものである。本講では、公共政策・公共政策学の歴史と理論を概観するとともに、具体的な公共政策について事例解説を試みるものである。
環境政策学 (岡庭 義行)	環境政策とは、環境問題を解決するための手段(methodology)である。本講は、環境政策の歴史や基礎的概念、理念・目的について学び、特に、国内外における環境問題の事例考察と、その解決のみならず、これから求められる環境政策についても考究することを目途としている。
文化人類学 (山崎 寿美子)	習慣や価値観が異なる文化について事例を挙げて検討しながら、自分たちの「あたりまえ」を捉え直していく。身近な営みである食をテーマに、その文化的なありかた、食と技術、現代の食事情等について考える。四街道地域でフィールドワークも行う。
まちづくり論 (岡庭 義行)	まちづくりは、人々のつながりや活動が生み出す「暮らしの風景」をもとにデザインしていくことである。本講は、具体的な事例の解説と実践的な講義を通して、まちづくりの意義と可能性について学ぶものである。
循環型社会学 (山崎 寿美子)	資源の枯渇、環境汚染、気候変動などの問題が生じている今日、これまでの大量生産・大量消費・大量破棄型の社会を見直して、新たな資源の消費を抑え、廃棄物を資源として再利用するといった循環型の社会のあり方が模索されている。本授業では、こうしたテーマについて講義するとともに、四街道市の活動団体などに調査も実施する。
協同組合論 (中村 塑)	協同組合は資本主義社会のなかで生まれた自助組織である。なぜ協同組合は必要とされたのか、どのような歴史を経て現在に至っているのか、協同組合は今後どのような可能性を持っているのか、について講義する。
移民政策論 (栗林 慶)	グローバル化とヒトの国際移動をキーワードに、移民政策について考える。前半は、グローバル化によって変わる政治経済と移民政策における各課題について学ぶ。後半は世界各地のエスニック集団の事情について紹介する。
社会経済史 (中村 塑)	今から500年以上前の大航海時代から現代に至るまでのグローバル・ヒストリー、中でもヨーロッパとアジアの関係に注目する。ヒト・モノ・カネ・情報は地球上でどのような動きをしてきたのか、また日本は世界とどのような関係を持ってきたのかについて講義する。
農業史 (中村 塑)	当たり前のことであるが、人間は食料なくしては生きていくことができない。したがって人間は、人間に食料を供給する第1次産業、特に農業とともに長い歴史を歩んできた。しかしながら、人間が作った社会の仕組みは各時代によって異なるため、社会の影響を受けやすいという性格を持つ農業は、それぞれの時代ならではの姿もあらわしてきた。農業について、時代を越えてつながっている点は何であるのか、各時代の中でのみみられた点は何であるのか、つまり歴史の連続している面と断絶している面の双方を意識しながら授業を進めていく。

【ビジネス専攻】

授業科目 (担当教員)	講義概要
情報科学概論 (日坂 彰)	情報科学概論は、情報科学の基礎やコンピュータやインターネットの仕組み及び原理を学習する。特に、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアについて、その詳細を学習する。
ビジネス情報学 (椋澤 恭子)	ビジネス情報を解析する手段として、機械学習の1つである画像分類やテキストマイニングを用いる。クロス集計からどのようなビジネス判断を行うかを考える。
プログラミング基礎 (日坂 彰)	本講義では普及度や実用性の高いプログラミング言語を用いて、プログラミングの基本的な構文と動作に関する演習を行う。
セキュリティ概論 (日坂 彰)	情報システムやインターネットの利便性が高まる一方で、様々なセキュリティリスクが伴う現実に対し、情報セキュリティの基本的知識と対策の必要性を講ずる。
ソーシャルビジネス概論 (椋澤 恭子)	ソーシャルビジネスの成り立ちや仕組みを理解する。 ソーシャルビジネスの今後について考える。
会計学概論 (呉 鳶)	企業会計は、会社の効率的な運営にとって不可欠の手続きである、実践的な知識として習得するため、本講義では演習問題を多くこなしていく。
原価計算論 (呉 鳶)	原価計算は、現代の経済社会を適切に運営するために不可欠なシステムである。本講義では、原価計算のモデルの基本的特徴、原価計算制度の基本構造等の専門知識と応用力を習得することができる。
マーケティング論 (溝田 俊之)	マーケティングに関する基礎的な知識を学ぶ。